

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学部第2類(公法コース)3年

参加プログラム: IARUグローバルサマープログラム

派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

<報告書目次>

1. 履修したコース "Local Government and Politics in China"について

- (1) 履修するきっかけ
- (2) 講義の進行方法
- (3) プレゼンテーション
- (4) 期末試験
- (5) 得られたものと発見した課題

2. 東大の北京代表所を訪れよう、東大校友会に参加しよう

3. 課外活動について

4. 一般的な事項について

(特別に知っておきたいことがあれば、報告書の末尾に連絡先を載せておきますので、個別に連絡をとってください。)

1. "Local Government and Politics in China"について

(1)履修するきっかけ

IARU のプログラムは、北京大学の International Summer School の一部分として運営されていた。IARU の参加学生の他にも、香港や台湾のプログラムからの参加学生や、オーストラリア国立大学、シンガポール国立大学の独自のプログラムからの参加学生、個人参加者等も多数いた。International Summer School 全体としては 20 弱のコースが開講されており、一般の参加学生は自由にコースを履修することができる一方で、IARU 参加学生は基本的には "Population Aging and Health"と "Communication, Culture and Society: the Chinese Way"という二つのコースしか履修することができないことになっていた。私は初日のガイダンスで初めてそのことを知った。地方自治や行政学に興味があり、さらに東大で「現代中国の政治」という授業を履修していた私は、時間割表から発見した"Local Government and Politics in China"というコースを履修したいと思い立った。北京大学の教務担当者にその場で尋ねてみたところ、東大当局と変更先コースの先生から許可をもらえば変更可能だと言われた。ただし、IARU 参加学生として在籍している以上は、IARU 指定の二つのコースのうちひとつは履修しなければならないという条件があった。そこで私は一週間考えた結果"Population Aging"を引き続き履修し、"Communication..."を"Local Government..."に変更することに決めた。その後東大本部の方にお手数おかけすることにはなったが、関心とマッチしたコースを履修することで、生活の大きな部分を占める授業時間を充実して過ごすことができ、大変良かったと思っている。

ちなみに、他のコースは以下の通りである。

Literature, Arts and Society in New China

Silk Road' A History of Cultural and Material Exchange

Chinese Folklore and Culture

Transition and Public Policy in China

Discovering Chinese History in Beijing

Topics on Chinese Economy
Topics in Chinese History and Culture
Modern Chinese Culture and Society (1910-Present)
Chinese Traditional Identity and its transformation after 1949
Flower in the Mirror' the Chinese Values
Introduction of Organizational Behavior
Major Issues Concerning the Rise of China
Economics, the Environment, and China
Comparative Philosophy China and the West

コースの内容は大きく分けて(a)講義、(b)プレゼン、(c)期末試験に大別される。成績評価は出席・授業参加が 20%、プレゼンが 20%、期末試験が 60%の配分だった。

(2)講義の進行方法

授業は先生がパワーポイントのスライドを見せながら講義を行うもので、その点では東大での授業と大きな差はないが、授業の中で学生に問題を投げかけたり、学生からの質問を常に受け付けてそれにひとつひとつ丁寧に答えたりと、学生と先生との距離は東大(たとえば前期教養)の授業よりもずっと近いように感じた。人数が多すぎない(30人前後)おかげだと思う。積極的に発言する学生は毎回決まった少数の学生であった。アウトプットを意識しながら授業に望むとインプットの効率も高まるし、日常会話ではない形で英語を使ういいチャンスなので、なるべく発言するように心がけた(とはいえ私自身は1回につき 1、2 度しか発言することはなかったが)。

英語については、教授を含めて英語を母国語とする人は少数だったため、さほど高い水準の英語が要求されるわけではなかった。とはいえ、学問の英語では会話とは違う語彙や構文が必要とされるので、事前に東大で英語を用いる授業を履修するなどして学問の英語に多く触れていれば、より積極的に授業に参加することができただろうと思う。

授業は全 12 回で、以下のシラバス通りに進化した。

Lecture 1: General Introduction to the Course
Lecture 2: Local government and politics in ancient China
Lecture 3: Central-Local Relationship I: Centralized Personnel Power
Lecture 4: Central-Local Relationship II: Decentralized Fiscal Power
Lecture 5: Local Government and Economic Development
Lecture 6: Bureaucracy and Policy Implementation
Lecture 7: Local People's Congress
Lecture 8: NGOs and Civil Society
Lecture 9: Rural Governance
Lecture 10: Local Government and Capitalists
Lecture 11: Local Government and Labor
Lecture 12: Final Exam

上記の通り、コース前半にて総論的な解説がなされたあと、コース後半では、Local People's Congress(地方人民代表大会)や NGO、資本家や労働者など、地方政治に影響を及ぼすアクターについて各論的に解説がなされた。コース全体に通底する観点、Centralization-Decentralization という軸である。財政面を中心とする地方分権化に

よって行政効率を高め経済成長を追求する一方、人事権による統制など政治面での中央集権体制を温存することで国全体としての統一が保たれているのが、中国の地方政府を取り巻く状況である、という主張が繰り返し話された。

毎回の授業の前には予習として2本の英字論文のリーディングが課された。授業ではその内容を中心としながら、背景知識を提供したり問題を投げかけたりして有機的に各授業のトピックを理解させようとするものだった。

(3)プレゼンテーション

3、4人の学生でプレゼンのグループを組み、各授業につき1グループずつ、その授業のトピックについて15分間のプレゼンを行った。

私は、東大からの他の参加者と香港大学からの参加者との3人で班を組んだ。私の班では<Lecture 4: Central-Local Relationship II: Decentralized Fiscal Power>でのプレゼンを担当した。予習のリーディングの解説に加えて自分なりに参考文献を見つけ出して紹介することを求められた。私は東大で「現代中国の政治」という授業を履修しており、その授業で教わった内容がプレゼンの担当テーマとマッチしていたので、東大での授業内容および東大のその先生の論文をインターネットで入手してまとめることにした。香港大学の学生はリーディングの解説を担当し、もうひとりの東大生は財政制度の日中比較を担当した。各人の担当が決まり次第それぞれパワーポイント作りに取り掛かった。ひと班15分間なので一人当たり5分の計算である。当日は授業前にリハーサルをして本番に望んだ。

(4)期末試験

期末試験前には、各授業のスライドと質問集が共有メールアカウントにアップロードされ、復習の役に立てた。私は律儀にもスライドをノートに書き写しながら講義を聞いていたのだが、後でスライドがダウンロードできることが伝えられ、徒労だとわかった。質問集については、その中から試験問題が出題されることが予想されたので、各質問についての自分なりの解答をノートにまとめることで試験準備とした。また前日には、同じくこのコースに変更した東大生と講義内容を教えあったりした。期末試験は予想通り質問集の中から4問ほど問題が出された。解答時間は2時間だった。思い出せる限り、問題は以下のようなものだった。

<Two roles of gentries in Ch'ing dynasty>

<Why heavy tax and non-tax burdens on peasants after 1990s?>

<Relationship between the Local People's Congress and the Party Committee>

<What is "local state corporatism", and why? Include at least one critique to this theory.>

(5)得られたものと発見した課題

語学以外で英語を用いる授業を履修することも、海外の学生に交じって授業を受けることも初めてだったので、海外留学の雰囲気味わう意義深い機会となった。

また、自分の専攻と興味関心にあてはまる授業を履修したことで、自分が東大で学んだ内容がどれほど海外で通用するのか試す良い機会となった。実際、授業の中には東大の政治学の授業などで出てきた内容（「本人-代理人理論」やカール・ポランニーの「大転換」など）が登場し、多少の感動を覚えた。

さらに、中国の政治について、中国の大学しかも北京大学で学ぶことができて満足感を得られた。

2.東大の北京代表所を訪れよう、東大校友会に参加しよう

北京を訪れる以前から、北京大学の近くに東大の北京代表所というところがあり、北大生に東大留学を宣伝するなどの活動を行っていると聞いていたので、一度お邪魔したいと思っていた。

そうしていたところ、7月下旬に、同行した東大生の紹介で、中国で活躍する東大OBの懇親会に参加させていただく機会を得た。その懇親会は東大の北京代表所に附属する同窓会（＝東大校友会）が主催するもので、月に一回開催

されてるという。懇親会では北京で働く東大の卒業生の方と語り合うことができた—中国に来た理由、中国での生活、仕事で経験した困難などなど。具体的には、日本の法律事務所の中国支所で働いていらっしゃる弁護士の方、中国に派遣されている国家公務員の方、日系家電メーカーの中国支店で働いていらっしゃる社員の方、新聞社の特派員の方などがいらした。またそのつながりで、北京大学の医学部に在籍している日本人の方ともお会いした。そこで出会ったうちの何人かの方には、後日改めてお食事に誘っていただき、より詳しいお話を伺うことができた。

私は将来中国で働くことも視野にれていたもので、そこで伺ったお話はとても刺激的だった。一般に東大の同窓会は総じてあまり活発ではないと言われているが、海外での東大生のつながりは活発であるというのが先輩方の意見であった。IARU 加盟大学の中でもこのような組織が身近にあるところは珍しいのではないか。これはほかの IARU GSP では得難い北京大学の魅力だと思う。

また後日、東大の北京代表所のオフィスにもお邪魔する機会を得た。突然お邪魔した私を所長はあたたかく迎えてくださり、たくさんのお話をしてくださった。北京大学生に対してどのように東大留学を売り込むのかという話を伺い、自分の大学を国際的な視野から眺める視点を得ることになった。

将来中国で働くこと、留学することを考えている人はもちろん、そうでない人も、代表所を訪れたり、校友会のネットワークに参加してみることをお勧めする。

3. 課外活動について ～大胆で独創的で具体的な計画を持って臨むべし～

授業について長々と書いてきたが、授業に期待しすぎてもいけない。授業内容は学部向けの教養科目という性格が強く、それほど深く掘り下げて検討するものではないし、授業スタイルも基本的には講義を聞いているだけである。授業で単位を取るだけだとあまりに受動的な毎日になってしまう。授業以外にも北京に来た意味を追い求めて欲しい。授業時間以外の時間は、多いようで少ない。私自身の過ごし方を話すと、第一週目の週末は早速風邪を引いて 39 度の熱を出してしまい、何もすることができず部屋で休んでいた。もし風邪を引いていなくても、第一週目は毎日のように北大側が企画したイベントが予定されていて、時間にゆとりはなかった。第二週目は、一緒に参加した東大生 5 人（+ 北大生の有志 1 人）と週末の全体夕食会で踊ることになったダンスの練習に授業以外の時間をほぼ費やした。そのため自分だけに使える時間はなかったが、夕食会でダンスを踊ったことは、それ自体楽しく思い出になり、東大生同士の仲を深め、海外の学生と知り合うきっかけにもなり、非常に良かったと思っている。毎年同じような会が開かれると思うので、少しでも特技のある人は積極的に参加して、思い出と交流の輪を広げていただきたい。第三週目は、第二週目までに知り合った学生たちと北京を出歩いたり、東大の同窓会に参加することで過ぎた。最後の第四週目は期末試験や最終プレゼンの準備に追われ、それから諸々のお別れ会に参加することで、他のことが手につかなかった。振り返ると、自分一人で何かにチャレンジすることのできる時間は、第三週目か、プログラムが終了した後だったように思う。私自身は三週目はぼーっと過ごしてしまったように思うが、プログラム終了後二日多く北京に滞在していたので、その時間を使って念願のサイクリングを楽しむことができた。北京に 1 年住んでいるルームメイトから借りた自転車で、北大から天安門、オリンピック公園を通過して北大に帰ってくるというコースで、北京中心部を満喫した。私は北京で何を実現したいか事前にもあまり考えずに来てしまい、後からあれもこれもやればよかったと後悔したが、入念に準備すればするほど豊かな滞在になっただろうと思う。来年以降の参加者には、受け身の姿勢で授業に出席するだけではなく、是非自分なりの目標や目的を見つけて、時間を捻り出してはそれを達成して欲しい。

4. 一般的な事柄について

(1) 参加の準備

①ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）
30 日ビザ（ビザタイプ F：訪問）。滞在期間は 1 日でも過ぎると罰金を取られるという噂なので、プログラム終了ご旅行を計画している方は気をつけること。ビザ申請は六本木の中国大使館で行った。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、予防接種等）
胃腸が弱いので胃腸薬をたくさん持参した。（正露丸、ビオフェルミン、大田胃酸、即効性の下痢止め）
それでも北京では 2 日に 1 日はお腹をこわしていた。

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカード付帯保険。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部の授業を最後の2週間欠席することになった。出席を取る授業は2つ(ゼミと民法基礎演習)あったが、それぞれ1回欠席で済んだ。

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学を決意したのが遅く、TOEFLは2月上旬に受けた。わりとボーダーぎりぎりだった(86点)。

中国語は、中国語検定2級を持っていたが、留学1ヶ月前ほどから中国語学習サークルに参加してウォーミングアップをした。中検2級、HSK5級以上の水準まで上げておけば、中国滞在をかなり楽しめると思う。

ちなみに中国語のレベル分けテストではリスニング(写真を見て、それと最も一致する中文を選択する問題)とディクテーションが出された。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

晴天と雨天の気温差が大きいので、長袖長ズボンもあったほうがいい。

お金を払ってでも、スマートフォンに中国語と英語の辞書を入れておくと便利。

パソコンに詳しい友人にVPNの設定を覚えてもらおうと有用。(facebookやyoutubeなどが使えるようになる)

体温計。

(2) 学習・研究について

履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

Local Government and Politics in China

Population Aging and Health

Chinese Language

(3) 生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学が用意した寮に宿泊した。寮の部屋は、個人の空間と、ルームメイトと二人で共有する空間との二段構造になっていて、トイレと浴室は共用だった。寮には有線インターネットはあったが、無線LANはなかった。寮入り口近くの洗濯機は2円で使うことができた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

食事について。茄子の料理は外れが無い。選択に困ったら茄子の料理を食べることをお勧めする。

構内での食事は、5元でおいしい大盛り麺が食べられる面食部と、中国各地の料理が一堂に会した家园食堂がおすすめ。農園食堂2階端の壺入りスープは大のお気に入り、全7種類を制覇した。暢春園食堂はベスト1の誉れ高いが、普段の活動範囲から遠く離れており(西門の近く、徒歩20~30分かかる)残念だった。

寮の近くのコンビニは、輸入品などは高めの値段設定になっているので注意。(例:350ml炭酸飲料が8元)

遠くなるが、なるべく大学構内の売店やスーパーで買物をするをお勧めする。

③言語について

中国語はできればできるほど楽しい。街や大学の売店では中国語でのやりとりが唯一の方法となる。寮の受付でさえも英語はしゃべってくれない。北京滞在を本当に楽しもうと思ったら、中国語ができるできないとでは大違いである。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

及び奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

学費15万円程度、航空賃50000円程度、宿泊費100元×30日=3000元(50000円程度)、その他諸費用70000円、合計32万円

奨学金はSantander奨学金17万円をいただきました。

自己負担分: 32万円-17万円=15万円程度

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

構内の体育館と寮内の運動施設にあるプールを利用した。プールは水泳試験(25mプールの4往復)を受けて合格証を取得すれば泳げる。

★ Further information

北京大学への留学についてより詳しい話を聞きたい方は、お気軽に連絡ください。

skungiryu#gmail.com 高江洲(タカエス)

(#をアットマークに変えてください。)

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部 3 年

参加プログラム: IARU GSP

派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

北京大学は中国で最も権威のある伝統校。大学構内は観光客で終日にぎわっている。どちらかといえば文系の北京大学、理系の清華大学と隣同士ですみわけしているようである。風光明媚なキャンパスで未名湖という大きな湖があり、大学のシンボルとなっている。また来賓、客人用のホテルが敷地内にある。

参加した動機

去年の夏に個人でロサンゼルスに UCLA に留学したときのルームメイトが二人とも中国人だった。その時以来中国、そしてそこに住む中国人に興味をもっていたから。中国の学生生活を体験したかった。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

このプログラムは例年締切りが早く、去年私自身も応募しようとしたときにはもう遅かったので、今年は早期からチェックしていた。早いこと情報を集めるのが大事です。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

北京大学から書類が来るので、それに従うだけでした。二回大使館に行く必要があるので時間に余裕をみていました。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIU の海外旅行保険

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

試験を九月初旬に変更してもらったり、レポートにってもらったり、セミナーの発表を早めたりしました。実験は休めないで日程に重ならなかったのはラッキーでした。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学し終わってから TOEFL をうけるつもりだったので留学中に勉強するつもりで、英語に関しては特に何もしませんでした。中国語は付け焼刃的な勉強をしましたが、あまり効果はないと現地で実感しました。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

東大関連のお土産は結構喜ばれました。例外は徽章で、東大で安いと思って買ったのですが、北京大学の徽章がべらぼうに安いものだったのでちょっと渡すのに戸惑いました。生活用品はすべて北京でそろえ、前の住人がのこしているものがあつたりするので日本からの荷物は少なめがいいです。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Population Aging and Society

Chinese culture and communication

Chinese language

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

Population Aging は毎回先生が変わり、基本的なことを毎回しゃべりながら各回のテーマ、ジェンダーとかデータ分析の手法とかについて話すスタイルで最後にグループごとにプレゼンがありました。

Chinese culture and communication は同じ先生で中国に関する事を先生の興味にそって話して下さる授業でした。毎週少し Discussion がありました。

Chinese language は中国語でしゃべるクラスで、しゃべり、聞くことのできる ABC(American Born Chinese)が多かったこともあって刺激の多いクラスでした。中国語で出前をとったり、アニメを見たりする楽しい授業でした。

④学習・研究面でのアドバイス

自分でテーマをもって授業に臨む姿勢が大事だと思います。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

英語に関して言えば、授業で困ることはありませんでしたが、普段は話す方も聞く方も一回ですばっとすむことはありませんでした。もっとストレスなく会話できたら楽しいだろうなと感じました。中国語は行く前と後で比べると目覚ましい進歩を遂げたので、かなり嬉しく思っています。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Global Village という留学生寮に泊まりました。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

食事は文句のつけようがなく美味しく、地下鉄は均一料金 30 円なので充実した生活でした。

③ 機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は悪くありませんが、留学で気分が高揚していると自分で感じたらはめをはずしすぎないようにするのも海外では大事だと思います。日々体を動かすことで(大気汚染がひどくても)、心身の、とくに心の健康を保っていました。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

総額 15 万円弱かかりました。

⑤ 学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

17 万円 東大の紹介でスペインの銀行から。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

バレーボールを週末に、平日はバスケットをしていました。屋外コートは 24 時間使えるので便利だと思います。IARU のプログラムも充実しているのでそれだけでも十分北京を楽しむことはできると思いますが、折角なのでもっといろんなことをするほうがいいでしょう。中国は今ものすごい勢いで発展しているので、期待以上のものに出会えるはずです。観光名所だけでなく、そのへんのカフェや本屋さんなどものぞいてみると色んな発見があるでしょう。私は週末を使って天津に行きました。それだけで報告書が書けるほど充実していましたが、長くなりすぎるので割愛します。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

プログラムのコーディネーターの学生が二人と、ランゲージパートナーが 15 人くらい面倒をみてくれました。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は薄暗いと評判でしたが、建物自体は立派なものでした。また卒業シーズンだったこともあり、卒業していく学生の残したメッセージカードにはなかなか含蓄のある言葉が書かれていて時間を忘れて見入っていました。食堂は全種類制覇しましたが、本当にどれも美味しかったです。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラムの目的はグローバルリーダーを育てることにある。リーダーの素質として、人をうまく使うということがあると思う。その意味で言えば、プログラムのコーディネーターの学生が最もリーダーとして働いていた。この学生は理系学生団体 Stella の中国支部のリーダーを二年務めていてこの秋からアメリカに博士を取りに行くほどの、超優秀な学生だった。そんな優秀な学生でもひとりですべての業務をこなすわけではないし、むしろリーダー自身はゆったりしているように見えた。ちょうどプログラムの真ん中でビュッフェ形式のパーティーがあるのだが、そこで私はその学生とともに司会をした。そういうことはしたことがなく、大体において目立つことはあまり好きではないほうだったが、海外だしちょっとやってやろう、という軽い気持ちで立候補したのだった。ほぼ準備らしい準備もなく、ぶっつけ本番だったので、拙いところは多々あったかもしれないが、やったあとの高揚感みたいなのがあった。100 人近い留学生の前で英語で司会、日本にいるときは考えもしなかったけれどやってみると意外と楽しかった。そして自分自身が目立つのが好きということも発見した。これはすごく得な性格だとおもうので、大事にしていきたい。

またそのパーティーで、ももクロのダンスを踊ったのも参加を通じて楽しかったことの一つに含めていいと思う。ダンスに関して全くのど素人からある程度見栄えのするところまで踊れるようになったのも成果だが、みんなでわいわい一つの目標に向かって練習したり、教えあったりするのがいい経験であった。

これらをふまえて、私はいい意味で目立つ生物の研究者になりたいと強く思うようになった。それも異分野の人と一緒に共同研究を積極的にやるスタイルがいいなあと感じたのであった。科学には遊び心が必要だと思う。ファインマンのような科学者が私の理想だ。

留学すると生きる本能みたいなのが湧いてきて、感性が鋭くなるように感じる。ぜひとも同世代の若者に留学を勧め

たい。とくに中国は豊かな人から貧しい人まで皆必死に生きている、この熱気を感じて自分のものにしてほしい。

② 参加後の予定

大学を卒業したら、アメリカに博士を取りに行きたいです。そして世界中を飛び回る科学者になって社会と科学に貢献するのが勉強、仕事の目標です。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

是非参加して下さい、間違いなく今激動のさなかにある中国を自分の目で、肌で、耳で感じて下さい！

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方

③ その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学部機械情報工学科 4年

参加プログラム: IARU2013

派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

中国において理系では最高峰とされる清華大学と並び、北京大学は文系での最高峰と位置付けられています。北京市の北西に、広大なキャンパスを持ち、清華大学、人民大学などにも近い立地です。学生はとても勉強熱心であり、休日ですえ各教室は自習している生徒で一杯です。北京もしくは清華大学生になりたい！という夢は、中国では日本以上に学歴が重視されているため、国民共通のものです。門の前には毎日見学の行列が出来ているのを見ると、国民からの憧れは強いものだと分かります。



北京大学東南門

大学の食堂



ガイダンス

参加した動機

一つに、このIARUGSPプログラムそのものに興味を持ったためです。世界各国の著名な大学から参加者が集まるため、生徒のレベル、授業のレベル共に高いに違いないと思いました。将来どのような職業に就くかは未定でしたが、どのような進路をとっても、英語は必要最低限の条件であるし、その上で、広い視点を持っているべきでしょう。その考えもあり、私の専門には全く関係ないとも言ってしまう、Population Aging And Health のコースを選びました。二つに、開催時期と中国そのものに魅力を感じたためです。4年であったため大学院の試験日程を考慮せねばなりませんでした。この北京大学のものは都合が良く、さらには昔から関心があった中国で短期とはいえ学ぶことが出来るという経験は、私の目にはまたとない貴重な機会に移りました。北京大学の本科生との交流もできるため、中国の現状を様々な側面から理解することもできるだろうとの期待もありました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

このプログラムに限らず、留学を少しでも視野に入れているならば、早めのTOEFL受験をお勧めします。また、多少の中国語の知識を事前につけていくと何かとスムーズに事が進みます。私自身の反省でもあります。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

3週間前くらいに六本木の中国大使館に行き、手続きしました。特に煩雑なプロセスは必要ありません。費用は3000

円であったと記憶しています。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特にしていません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

JALのNAVIカード付帯保険を使用しました。学生のうちは、所持に一切の費用を要さず、かつ持っているだけで勝手についてくるので海外旅行などの際にもとても便利です。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学科での卒論中間試問の日程を特別に前倒しにしてもらえよう交渉しました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語は、勉強していかなずとも、喋る勢いさえあれば大丈夫です。中国語は、最低限の勉強をしておかないと、買物、食事等で苦労します。といっても、参加者の半数以上が中国語を普通に喋れる人たちがばかりなので、その人たちと行動すれば、最悪自分は身振り手振りで大丈夫ですが。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本製でないと個人的に心配になってしまうもの。(人によっては、シャンプー、日焼け止め、化粧品とか)基本的に現地で買えないものは、ほぼないと言って構わないでしょう。



北京ダック



大学主催のパーティ

古い街並み



学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Population Aging and Health

Local Government and Politics in China

Chinese language

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

どの授業も東大の授業スタイルと同じ講義形式で、講師が前に立ち、講義するようなものです。

Population: 予習の必要はほぼなく、授業で発言が求められる機会は、全体に向けたものもグループディスカッションも含め、あまりないです。評価方法は3000語以上の最終レポート、グループプレゼン、出席であるため、復習の必要もないです。オムニバスで、内容がかぶることが多々あるのが、残念でした。高齢化社会と精神病に関する回の講義は面白かったです。

Local Government: 毎回必須の読み物が20p程、オプショナルなものが20p程。評価方法はテストと、グループプレゼン、出席。テストがあるため最終的には復習は必須でした。基本的な中国政府の構造から入り、経済政策や財政政策にも触れ、様々な理論にも触れるものでした。

Chinese Language: レベルに応じて6段階に振り分けられます。私は中国語の心得はなかったため、レベル3になり

ましたが、ABCの人も多いため周りは皆結構聞けてかつ喋れて、授業中は終始圧倒されていました。週3回で二時間授業なので、集中的に学べ、最終週には最初と比べてとても成長することができました。

③学習・研究面でのアドバイス

どのクラスでもグループワークはあるので、積極的に発言していくと良い経験になると思います。

④語学面での苦労・アドバイス等

英語に関しては、講師も英語ネイティブでないことがほとんどなため、はや過ぎて聞き取れないことは全くないです。生徒間のディスカッションで、苦労することはあるかもしれませんが、基本的には心配ないです。中国語に関しては、勉強をもっとしていくべきだったという後悔をしてやみません。

生活について

①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学まで徒歩5分くらいの大学の寮に宿泊しました。部屋は一人ひとりあって、トイレとシャワーを2人で共有していました。1日100円でした。また、事務はほぼ中国語しか通じませんので気をつけてください。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

基本的に移動は地下鉄とタクシーであり、大学から1時間以内のところにショッピングモールやレストラン街、バーなどが大体そろっています。小西門から出て直進すること5分ほどの場所にあるカフェが、その中だけ違う国にきたかの如く、良い雰囲気を創りだしていておすすめです。北京大学本科生もテスト期間の勉強に良く利用しているらしいです。



上：かめ

下：ざりがに

ドラゴンフルーツアイス！
たったの30円程



大学近くのカフェ



③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はフランスなどに比べ格段に良いです。医療品は、総合風邪薬と胃薬は必須ですが、食事はほぼ全てのものが火を通してあるのでその程度で大丈夫でしょう。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券4万円・授業料9000RMB・寮費100RMB/泊・その他4万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

約18万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

授業以外の時間は友人たちと観光に行ったり、現地学生に聞いたおすすめのレストラン・ショッピングに行ったりしました。また、学内に50mプールがあり、よくそれを利用していました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

生活面では、現地のプログラムアシスタントの人々にいろいろお世話になりました。また、ランゲージパートナーの初

期のころに紹介があり、語学面でのサポートも利用できます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

学内で WiFi が利用できます。食堂は多数あり、平均7RMB程で美味しい食事がいただけます。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

同じ事柄が語られる場合でも、授業はその国独特の視点を背後において進められているでしょう。この点で、今回中国での学びから得られるものは、私にとっては新鮮でした。また、各国からの学生と会話し得るものも大きかったです。自分の知らない世界がまだまだ広がっていると再自覚するとともに、様々な視点で同じ物事を見て批評していく必要性も実感しました。

②参加後の予定

今後もこのような留学プログラムに機会があれば積極的に参加し、自分の世界を広げていきたいと考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

東京大学のホームページにはたくさんの留学プログラムが載っています。どれに参加するにしろ、応募時期が実際に留学する半年前くらいで早いので、ちょこちょこ調べておくといいと思います。また、語学面の対策は早めにやっておくことが重要でしょう。興味を持ったプログラムの留学経験者に直接話を聞いておくことをおすすめします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Lonely Planet, とらべるこちゃん

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



雲南料理レストラン



万里の長城



頤和園の湖上



現地アシスタント学生とのお別れ会



言語パートナー学生と夕食



学校近くのバー

IARU メンバー



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 医学部医学科 4 年

参加プログラム: IARU Summer GSP

派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

北京大学。中国で清華大学とともにトップ大学とされている。

参加した動機

将来海外の大学院に行くことを考え、一ヶ月でも留学を体験してみたかったから。また、中国語と英語のレベルを向上させたかったから。それから、他人に頼らずに自力で海外生活する練習がしたかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

IARUのプログラムの存在を早く知ることが一番大事です。そのためには、東大内外の海外留学情報をよくチェックすることですね。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

私は応募中に国籍と姓が変わってしまい、非常に面倒でした。しかもプログラム 1ヶ月前でした。それでも何とかしたので、余程大丈夫だと思います。ビザは私の時は平日4日で降りました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

三井住友海上保険、です。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所属学部に必要な書類を提出しました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL83、HSK6 級(渡航後に合格が分かりました)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

持参しなくて後悔したものは、運動靴&靴下(ソールで大丈夫と思っていた)、カメラのコード(Facebook にUPしたいですね。笑)持参したけど使わなかったものは、マスク(暑すぎて使えない)、長ズボン(暑すぎて履かない)
出発前には、留学に集中できるよう他の事を片付けておくのがお勧めです。中国語は全くできなくても何とかできますが、興味のある人はこれを機会に出発前から勉強しておくといいと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Population Aging and Health

Chinese Communication and Culture : The Chinese way

Chinese Language

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

予習はありませんでした。復習は授業中に見返すくらいでした。

中国語の授業が一番楽しかったです。

④学習・研究面でのアドバイス

英語で 3000 字のレポートを書くのは初めてだったので戸惑いました。レポートに慣れていない人は、同級生からどうやって書くのか、どう役に立つ参照先を見つけるのか、聞くなどして真似すると良いと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

自分は英語でも中国語でも耳が悪いことがよくよく分かりました。話す方が得意な人も居れば、聞く方が得意な人もいますよね。個人的には、まず話していることを理解できないとそれに対する自分の意見を主張できないので、聞く能力の方が大事なのではと思っています。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

思ったより綺麗でした。日本の基準でいうと汚いです。笑

親戚に手伝ってもらって北京空港から宿泊先まで送ってもらいましたが、後から送迎があることを知りました。でも送迎時間を事前に教えてくれないので、それにそって航空券チケットを取ることが出来ず、微妙です。

1人でタクシーに乗るのは危険なのでやめた方がいいと思います。海外で1人で公共交通機関を使用することに慣れていない人は、それも1人で移動するのは避けた方がいいと思います(英語は通じません)。同じ北京大留学予定の人と誘い合わせて一緒に飛行機をとって移動するのが良いと思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大気汚染とPM2.5が騒がれ、北京では青空を見られないといわれていますが、全然大したことないです。多分、そこで5年10年生活すると健康に影響が出てくるのでしょうか、1ヶ月では殆ど影響はないと思います。

回りには美味しいお店がいっぱいあり、電車やバスに乗れば色々な観光地にいきます。

食事は東大の食堂より圧倒的に品数とボリュームが多く、おまけに安くて美味しいです。ただ脂っこいかも。

お金は現金でしたが、クレジットカードを作っておかなかったことを後悔しました。かさばります。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安も北京大内に限っては悪くないです。目を離したすきに日傘を盗まれたくらいです。

北京大病院があるので大丈夫です。一度食中毒を起こして漢方薬で治しました。

つつい食べ過ぎてしまう癖は直りませんでした。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費:5万 授業料:10万くらい? その他全て:10万くらい

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

無し

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

ガイドブックに載っている北京ベスト10の観光地は全て行きました。もう少し水泳が出来たら、プールのライセンス(※有料)をとっていたかも知れませんが、少し悔しかったです。週末は天津に足を伸ばしたりもしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

IARU北京大リーダーの女性の方が本当に素敵な方で、サポートや盛り上げをしっかりとってくれました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は大きくて立派ですが、空き教室でも自習できるので1回しか行きませんでした。

食堂の数と、メニューの品数と美味しさが素晴らしいです。

大学内のアカデミック関係の建物には全て無料wifiが通っている点は素晴らしいです!!ただし電波が不安定で繋がったり繋がらなかったりします。宿泊先では有線LANがあります。

MAC使用者には有線LANが対応していないので、苦勞していた様です。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学を通じての所感

・勉強面

授業を全部聞いて配られた資料は全て読み課題もテストも全部しっかりやる・・というのは、留学先に限らず東大内でも殆ど無理に近いですが、ポイントを決めて頑張りました。

例えば語学では『絶対日本語を使わない』と決め、日本人同士でも英語か中国語を使用していました。疲れている時や日本にいる友達とのメールでは日本語を使っていたのですが、基本的には守りました。効果の程は分かりませんが、知らない単語が出てきた時や聞き取れない時は聞き返したので多少は成長したと思います。また『博雅汉语』という参考書を買って半分ほどやりました。友達との会話や授業からリスニング力が相当悪いことが分かったので、帰国してからリスニングを鍛えようと誓いました。

Population Aging and HealthとThe Chinese wayの授業は正直にいうととてもつまらない(笑)と思ったのですが、レポートの内容が『授業に関係あればなんでもOK』というのは素晴らしいかったです。The Chinese wayでは純粋に自分の

興味あることをレポートに書いたので 2000 字も全く辛くなくて楽しかったです。Population Aging and Health では思い切ってグループのプレゼンター役をさせていただきました。英語でプレゼンをしたことがなかったので貴重な経験をさせていただきました。

・IARUの公式イベント

何よりも思い出深いのは、Big Buffet という 100 人程留学生が集まるパーティーで、北京に留学している東大生の 4 人でももクロ(ダンスグループ)を披露したことです。留学の第 2 週目を一言でいうと『ももクロ』です。一番多いときは 1 日 5 時間練習しました。どうせやるなら本気でないとつまらない！ということで、みんなでデパートに衣装を買いに行き、男子も全員アイドルの衣装を着ました。直前の 3 日はずっと筋肉痛でしたが、北京大の体育館を夜遅くまで特別に使わせてもらったり、差し入れをいただいたり、毎日アフターの飲みがあったりと非常に楽しかったです。他の留学生達から何人も出し物のレベルが他と全然違った、東大が一番だったと言っていました。他にも雑技団を見させてもらったり、有名な火鍋を食べたり、京劇を見たりと IARU の公式イベントはどれもクオリティーが高かったです。一回だけ個別で天津小旅行に出かけたので博物館に行けませんでした。公式イベントはなるべく参加することをお勧めします。

参加を通じて成長したこと

思わぬ良い刺激・気づきを沢山得られたと思います。例えば気づかぬうちに無駄な時間を沢山過ごしていたこと、発言に気をつけようと思ったこと、授業はこれから PC でノートをとろうと思ったこと。参加する人によって得る物や感じることは異なると思います。あと、自力で生活する能力も少しは上がったと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

国籍変更、氏名変更、ビザ関係のウェブサイトを漁っていたと思います。

北京大のガイドブックは友達が持っていたのでそれを見ていましたが、上手く持っている友達が見つからないかもしれないので自分で買っていくといいです。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

なぜかスペースに写真が挿入できないです>< ごめんなさい笑

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教養学部2年

参加プログラム: IARU GSP

派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

北京大学 中国では清華大学と並んでトップ大学。

参加した動機

二年生の夏という、進振りをする前にして最も時間的に余裕のある時期に、何か新しいことにチャレンジしたいと思ったため。

他の大学での留学も考えたが、その中で北京大学を選んだ理由は、ただ単に何となく留学に行くだけでなく、ある意味自分の故郷でありながら何も理解していない中国での生活を体験することで、自分の中でのアイデンティティを深めるきっかけになればいいと考えたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

教養学部でのテスト日程、単位の過不足は自分でしっかり調べる。

前期教養課程では基本的に、単位互換や留学に対する特別措置は無いと思った方がいいです。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国国籍なので、特に手続きは不要でした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

ネットで一番安い保険に加入しました。保障内容は十分充実していたと思います。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

物理学実験では留学による欠席は正当な理由と見なされず、代替実験の申請は拒否されました。

他の科目においても、基本的に特別な手続きは認められませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

幼少期に少し英語圏に在住していたため、いわゆる帰国子女程ではないが、ある程度の英語力がありました。(TOEFL iBT 102 点)

両親が昔から家で中国語を使っていたのと、大学で一年間勤勉に学んだので、中国語もある程度できました。(HSK 5級 276 点)

つまり留学先では一から言語を学ぶことは無く、既に基本的なコミュニケーションに困らない言語を、使っていく中でより深めるという具合でした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

電子辞書は携帯しておくのを勧めます。道ばたでわからない単語に出会ったときに、記録しておくのはすごく有意義でした。また、コミュニケーションにも役立ちます。

日本のお土産を持っていくのもお勧めです。仲良くなった友達に、別れ際などに渡すと喜ばれました。和風の柄のストラップや小物等が特に人気みたいです。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Communication, Culture, and Society: The Chinese Way

Topics on Chinese Economy

Chinese Language

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

Communication は中国社会、文化の基本的な事項について無理無く学べました。

Economy の授業では参考図書の量が膨大でしたが、全てをこなす必要は無いです。本格的なディベートや生徒主体

のプレゼンなども多く、さすがにネイティブとの語学力の差が気になりましたが、実力のつく授業でした。
Language は中国語をレベル別に学ぶ授業で、私のクラスは緩い授業でした。中国語のジョークやこぼれ話などを楽しく学びました。

④学習・研究面でのアドバイス

Final Paper の提出が各科目であります。直前にあたふた書いている人もいたので、余裕を持って暇な時間に少しずつ進めておくことをお勧めします。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

私の場合はもともとある程度使える言語での交流だったので、本当に中身の濃い交流を色々な友達とすることが出来て有意義でした。

話せば話せる程語学力もどんどん向上していくのを感じたので、私みたいにある程度慣れた国に行くのも一つのいい選択肢だと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学の寮でした。wifi 環境以外は全て満足の行くいい場所だと感じました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
交通は地下鉄がかなり使いやすいし、taxi も安いのでかなり便利。
食事は人に依っては脂っこいのが苦手です。苦労するみたいです。
クレジットは基本的に使えないと考えた方がいいと思います。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は悪くないと感じました。
健康状態に関しては自分は大丈夫でした。医療機関などは分かりません。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券 8万(周遊を兼ねたので高め)
授業料 9000RMB (14.4 万)
宿泊 2700RMB (約 3 万)
食費、娯楽、交通 約 2000RMB (3.6 万)

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
Santander 奨学金 約 17 万 学校側が探してくれました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
週末の活動はすごく充実していて、主要な観光名所への訪問は全てプログラムに組み込まれていました。
文化活動はあまりなく、授業外の時間は友達と遊んだり、課題をこなしたりするのに用いました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
Language Partner を作る機会を提供してくれたので、語学面でのサポートはばっちりでした。
また、受講科目を変えたいという要望を出したときには、フレキシブルに対応してくれたので、学習に対する個別の対応も充実していたように感じます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
図書館は広く過ごしやすい
食堂はうるさく汚いですが、慣れればそれも愉快地に感じます。
主要な建物の中は wifi がありますが、大学全体でみれば wifi 環境はやや不満。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
授業では中国という国に対する基本的な事項の理解を得られた。
また、その他の時間にも中国語を用い生活して、中国での生活を実際に体験することにより、教科書学習ではカバー出来ない、深い部分からの中国の生活への理解も出来ました。
そして、例えば 36 歳の韓国出身の会社員さん、中国と日本のハーフで英語でプレゼンテーションをするブラジル人(しかも girl friend は韓国人)、等々多様な背景を持つ学生との交流の中で、自分のアイデンティティについて考える機会が多くありました。

何より、時に中国語、時に英語を用い、夜通しで政治問題、国際問題、人生経験、家庭、恋愛等々、全てをさらけ出して語り合った仲間との時間は、これからも自分に大きな影響を与えてくれると確信しています。

②参加後の予定

前期教養を終えて、後期課程に入ります。理学部に進む私は、今回学んだことは直接専門分野には関わりませんが、これからも日本、中国の中間にいる人間として出来ることを模索していこうと考えます。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

準備にかかる時間、サークルや他の活動との兼ね合い等、留学によってかかる負担、失うものも多いと思います。それでも行く価値があると判断して、確かな収穫を得た実感があるのは、目的を具体的に設定していたからだと感じています。

参加を考えている学生は、グローバルになる、等の抽象や憧れだけでなく、具体的に何を身につけたいのかまで考えるのを勧めます。充実した留学になることを祈っています。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

北京の地図 北京の地理は座標みたいな感覚で理解しやすいので、現地で役に立ちます。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

食堂でのランチの写真です。

